

**中間貯蔵・乾式容器の寿命は たかだか 50 年の消耗品！！ 「中間」貯蔵が「永久」貯蔵となるのは自明！！**

**杉本知事 様！ 歴代知事が認めなかった「敷地内貯蔵」を了解しないで下さい！！**

## 使用済 MOX 燃料は、高浜で永久保管となる見込み !!



もはや取り返しのつかぬことが一つあります。それは、高浜3・4号機のプルサーマル運転で生じた使用済 MOX(プルトニウム混合酸化物)燃料は、乾式容器へ移すには約 90 年冷やさねばならず、プールの寿命を超えてしまいます。しかも、ヒドイ話ですが、そもそも運転当初から、これを再処理できる工場は世界のどこにもありませんでした。

1998 年にプルサーマル運転の許可を国に申請する際、関西電力は「使用済 MOX 燃料の搬出先は、国が再処理方法などの方針を 2010 年までに決める」と約束し、県も「行き先が決っていないのは不安。早く決めるよう求める」と心配していました。その第二再処理工場は、いつどこにできるかの青写真すらいまだにありません。使用済 MOX 燃料を再処理する第二再処理工場の建設・稼働など夢のまた夢、おとぎ話にすぎません。それに、たとえ再処理できても、あらたに余剰プルトニウムが生まれ、そのことで再処理工場の稼働が制限されてしまうという矛盾を重ねるだけです。政治家が今なすべきことは、毒性の強い長寿命の放射能ゴミをこれ以上、増やさせないという決断です。

## 市民ボランティアの出前講座をご利用ください！

— 原発ゴミの現状など、複雑な問題をわかりやすく解説します —

プロジェクターを使ったわかりやすいお話しです。新聞記事など客観的な資料を使って事実のみをお伝えします。二人以上のご参加で、講師謝礼は無用。ご予約の日時など、気軽にお問い合わせください。 連絡先 090-6271-8771 (山崎)



参考図書: 「再稼働の前に考えよう使用済み核燃料」長沢啓行講演録 ¥500

「なぜ、原発で若狭の振興は失敗したのか」白馬社 山崎隆敏 ¥935

## 歴代知事は、「敷地内貯蔵」を認めませんでした！！

栗田(元)知事も西川(前)知事も、使用済み核燃料の原発敷地内の貯蔵を認めませんでした。それは、「核燃サイクル」が破綻した現状で敷地内貯蔵を認めれば、若狭が核のゴミ捨て場になることをよく理解されていたからでしょう。

2015 年、川田達男福井商工会会頭の「(原発構内での)中間貯蔵を貯蔵ビジネスと意識転換すべし」の提言にも、西川(前)知事は「中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事、雇用効果はない」と原発敷地内での貯蔵をあくまでも拒否されました。

原発敷地内貯蔵の容認は、栗田(元)知事以来の県原子力行政の大転換となり、若狭を核のゴミの墓場にしないでという県民多数の願いにもそむくこととなります。

## 行先のない使用済み核燃料を増やさないで！！

関電が「敷地内貯蔵」を急ぐ理由は、使用済み料を入れるプールが、まもなく満杯となって燃料交換ができず、原発を止めざるを得なくなる事態を避けるためです。

「今後、原則として貯蔵容量を増加させない」との関電の主張はまやかしです。上関町であれ原発構内であれ、「中間貯蔵」ができれば原発は稼働し続け、行先のない大量の使用済み核燃料が、原発のプールに、さらに溜めこまれ続けることになるでしょう。



## サヨナラ原発福井ネットワーク

<http://sayonaranppf.com/>

〒 915-0096 越前市瓜生町 51-2-7 若泉方

tel. 090-7083-8921 郵便振替口座 00780-9-40314



私たちは、脱原発を願い、様々な職業や立場の普通の市民が集うボランティアネットです。